

法政大学大学院経営学研究科

研究指導計画

(博士後期課程)

【研究指導体制】

- ・ 入学時に希望した教員を指導教員とする。
- ・ 研究テーマを考慮して、副指導教員を配置する。
- ・ 指導教員の博士演習を履修させ、副指導教員とともに、3ステップ制のもとで各ステップを着実にクリアさせる。
- ・ 指導教員および副指導教員が、学位論文の審査基準を満たす博士論文の作成と、学位審査の合格ができるよう研究指導を行う。
- ・ 指導教員および副指導教員を主とした研究指導体制をとるが、年2回の博士論文中間報告会等で関連分野の教員による集団指導も行う。
- ・ 以下は、標準的な研究指導スケジュールである。

【1年次】

「4月」

- ・ 4月下旬までに指導教員承認届を提出させ、指導教員および副指導教員を確定させる。
- ・ 博士演習 I A および I B を履修させ、指導教員と副指導教員による研究指導を開始する。
- ・ 研究倫理教育である eラーニング (eL-Core) の修了証を提出させる。

「4月～12月」

- ・ ステップ1のクリアを念頭に、指導教員及び副指導教員が指導を行う。
- ・ ステップ1は、「プロポーザル（主要論文のサーベイに基づく論点の開示、研究方法、博士論文の構成[章立て]、論文作成スケジュールの提示）の提出と報告」である。

「7月／12月：中間報告会」

- ・ 博士コースワークショップ I A もしくは I B を履修させ、博士論文中間報告会で報告を行わせる。

- ・博士コースワークショップⅠＡもしくはⅠＢでは、ステップ１のクリアを目標とさせる。

「１月」

- ・１年次の研究成果を報告書にまとめさせ、１月末までに指導教員へ提出させる。

【２年次】

「４月」

- ・博士演習ⅡＡおよびⅡＢを履修させ、指導教員と副指導教員による研究指導を継続する。

「４月～１２月」

- ・ステップ２のクリアを念頭に、指導教員及び副指導教員が指導を行う。
- ・ステップ２は、「先行研究に関するサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章）の提出と報告」である。
- ・ステップ１をクリアしていない場合は、博士コースワークショップⅠＡ・ⅠＢの内容に準じて指導を行う。

「７月／１２月：中間報告会」

- ・博士コースワークショップⅡＡもしくはⅡＢを履修させ、博士論文中間報告会で報告を行わせる。
- ・博士コースワークショップⅡＡもしくはⅡＢでは、ステップ２のクリアを目標とさせる。

「１月」

- ・２年次の研究成果を報告書にまとめさせ、１月末までに指導教員へ提出させる。

【３年次】

「４月」

- ・博士演習ⅢＡおよびⅢＢを履修させ、指導教員と副指導教員による研究指導を継続する

「4月～12月」

- ・ ステップ3のクリアを念頭に、指導教員及び副指導教員が指導を行う。
- ・ ステップ3は、「全体構想の提示と博士論文を構成する主要な部分（章）の提出と報告」である。
- ・ ステップ2をクリアしていない場合は、博士コースワークショップⅡA・ⅡBの内容に準じて指導を行う。

「7月／12月：中間報告会」

- ・ 博士コースワークショップⅢAもしくはⅢBを履修させ、博士論文中間報告会で報告を行わせる。
- ・ 博士コースワークショップⅢAもしくはⅢBでは、ステップ3のクリアを目標とさせる。

「9月／1月：学位申請」

- ・ ステップ3をクリアし博士論文を完成させたら、指導教員との打合せのうえ、所定の日程までに博士学位申請をさせる。

「学位申請以後」

- ・ 審査委員会で論文受理が決定されたら、公開審査会および最終試験に向けた指導を行う。
- ・ 公開審査会で修正が求められた場合は、修正の指導を行い、最終版を提出させる。
- ・ 審査委員会での審査を経て学位授与が決定される。